

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 10 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531169

研究課題名(和文) 国語科学習指導の基本的な知識・技術の具体化・体系化研究

研究課題名(英文) Realization and systematization of basic knowledge and techniques of Japanese language teaching practice

研究代表者

常木 正則 (tsuneki, masanori)

新潟大学・人文社会・教育科学系・フェロー

研究者番号：90125724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)： 国語科学習指導の基本的な知識・技術は数点しか明らかにし得なかった。しかし、すでに明らかにしている知識・技術が授業の実際で適用されていない原因を明らかにした。また、基本的な知識・技術を認識・習得する方法として、学習指導計画・学習指導案のあり方、学習指導研究のあり方、授業公開のあり方、授業観察の仕方・記録のとり方、公開授業後の協議会のあり方についての知見をまとめることができた。

研究成果の概要(英文)： I collected data on the basic knowledge and techniques of Japanese language teaching practice through class observation and literature analysis. I found that only limited basic knowledge and a few techniques were used. This study showed that the basic knowledge and techniques were rarely used in classes. I presented my opinions on the reasons for this situation and proposed ways for recognizing and acquiring basic knowledge and techniques.

研究分野：社会科学

キーワード： 国語科学習指導知識・技術 国語科学習指導知識・技術の具体化・体系化 国語科学習指導知識・技術の養成・研修 国語科学習指導知識・技術の伝達・習得

1. 研究開始当初の背景

学習指導の基本的な知識・技術が教職経験6年目以上の指導者にあっても習得されていないのではないかと、との問題意識を持った。そこで、どのような基本的な知識・技術があるのか、基本的とみなされる知識・技術が適用されているか、の探求を開始した。この研究活動を通して次の4点の認識を得た。

(1) 国語科学習指導の基本的な知識・技術が具体的・体系的に明らかになっていないこと。

(2) 国語科学習指導の基本的な知識・技術が組織的・計画的に伝達・習得されていないこと。

(3) 授業場面から有用・有益な知識・技術を発見・獲得することはほとんどなかったこと。

(4) 今までにやってきていることを変えさせることは難しいこと。

以上の認識から、一層、基本的な知識・技術の具体化・体系化研究と養成・研修の目標・内容・方法の研究を進める必要があるとの思いを持つに至った。

2. 研究の目的

国語科学習指導の基本的な知識・技術を具体的に言語化し、知識・技術群の体系化を図る。

知識・技術の具体的な言語化とは、知識・技術の内実を伝達可能な言語で捉えることである。項目、例えば、「板書」、「話し方」、「発問」としてのみ示すのではない。

体系化とは、何らかの分類基準により知識・技術群を整理することである。

このことにより、養成・研修段階の教育・研修の目標・内容・方法を明確にすることができる。

3. 研究の方法

主な研究内容・方法は以下の5つである。

(1) 授業観察に基づいて、国語科学習指導にかかわる知識・技術の項目及びその具体的

内容を明らかにし言語化する。

(2) 一人前レベル、熟達者レベルにあるとみなされる教師との議論により、集積済みの知識・技術の妥当性と新たに付け加えるとよい知識・技術を明らかにしていく。

(3) 文献、映像資料の調査研究により項目及びその具体的内容を明らかにしていく。

(4) 具体的内容の効果的表現の研究。知識・技術を伝える最も効果的な伝達表現研究を先行事例に学びながら行う。

(5) 以上1～4の研究過程で、知識・技術の体系化研究を理論的に行う。

4. 研究成果

(1) 小中学校の国語科授業の観察、インタビュー調査、各種国語科学習指導実践資料及び関連文献の精査により国語科学習指導の基本的な知識・技術の集積及びその分類、体系化の研究に関して

国語科授業の観察からはそれまでに集積していた知識・技術以外の新たな知識・技術をほとんど見出すことはできなかった。国語科授業の観察からわかったことは、それまでに筆者が集積していた知識・技術がほとんど適用されていないということであった。基本的な知識・技術が適用されていないと学習にゆるんだ様態が、一方わずか2例ではあったが基本的な知識・技術が適用されている授業は緊密な様態が、が明瞭に観察された。このことから、学習指導の基本的な知識・技術の有用性・有効性を確認することができた。

インタビュー調査では、新たな知識・技術はほとんど得られなかった。しかし、筆者が明らかにしている基本的な知識・技術の重要性について同意を得ることができた。

各種国語科学習指導実践資料及び関連文献の精査からは、何点かの知識・技術を得ることができた。しかし、文献の研究では、国語科学習指導の基本的な知識・技術の具体化とその体系化の研究が管見では十分行われていないとの認識を持った。獲得した具体

例をいくつか挙げる（出典・詳細は略）。

教室に出向く前に、姿見で身なりを整える。顔つきを整える。

口元に目を向けさせてから話し始める。チョークの先に学習者全員に注目させてから書き始める。

指示棒は人差し指を指示棒（葦の枯茎でよい）の上に添える。こうすることで、どの文、どの言葉を指すか、指す人の意思を指示棒に的確に伝えることができる。

学習者全員に板書過程が見えるように板書する。学習者には、その過程でどうすべきか明確な指示をする。「板書過程を見ること」「読むこと」「ノートにとること」などである。

その学年の各領域の学習指導では、ほぼ同じ学習指導・学習の展開過程を取る。その利点は、指導者にとってはその学習指導に習熟するであろうし、学習者にとっては学び方を学ぶことになる。

以上の研究結果から、国語科学習指導の基本的な知識・技術の具体化・体系化研究の意義・価値を改めて確認することができた。

今後の研究課題・研究方法としては、文献の丹念な精査にあると思われる。文献の中に基本的な知識・技術が埋もれているというか眠っているからである。

（２）基本的な知識・技術を認識・習得する方法としての学習指導計画・学習指導案のあり方、学習指導研究のあり方、授業公開のあり方、授業観察の仕方・記録のとり方、公開授業後の協議会のあり方に関して（これらは当初の研究目的・内容にはなかった事項であるが基本的な知識・技術を認識・習得する方法として有益な知見であると思われるので以下に記す）

学習指導計画を具体的なものとするためには、学習指導の言葉を具体的に書くことである。イメージとしては脚本のセリフである。ト書きに相当するものは指導上の

留意点である。

研究的な実践での学習指導案では全時の展開案を書く。展開案の記述は学習者に実際に語りかける言葉（説明・指示・学習課題の提示）と指導上の留意点を書く。

学習指導研究の発端は二つある。一つは、どうするとよいのかとか、これでよいのかとか、思うようにいかないどうすればよいのか、という実践上の問題認識からである。もう一つは、時代の要請や学習指導要領が規定している目標・内容などからである。後者の学習指導研究が多い。中央教育審議会から「学習指導要領の改善について」の答申が出され、「新学習指導要領」の公示が出てからの数年間、新しい提案に基づく学習指導研究が活性化する。新しい目標・内容の達成のためにどうするかは研究の主題になる。確かに大切な研究である。しかし、このような研究は、時流に乗った研究との感が私には否めない。私は、前者の問題認識に基づく研究を行ってきた、後者が時流に乗った研究とするならば、前者はどうするとよいのか自分の頭で考え、学習者の実態に基づく研究と価値づけることができる。実践者が行う学習指導研究は前者が主流となるべきであろう。

授業公開の目的を明確にする。目的が明確であれば、誰が誰に対して公開するのが決まってくる。

日ごろ実践している単元の全容を参観者・指導者に公開し指導を仰ぐ。例えば、中学一年生の説明的文章の第１単元であれば、その学習指導はこんな風に行っている、とその全容を示し、その一部１単位時間の授業を公開し指導を仰ぐ。日ごろ行っていることを報告するのであるからそれほど労力は必要としない。現在行われている公開授業研究の大方では、単元の全体は概略的で、単元の部分、本時が肥大化している。

仮説を持って授業観察に臨む。何を観るのか観察の対象と何のあり方を明確にして観察することである。例えば、学習課題の提示からその解決までの過程はどうあることが望ましいのか、自分なりの理想とする具体的な展開過程を思い描いて、授業を観察するとよいということである。

座席表に学習活動(発言、行動、表情など)を書き込んでいく。この方法を採用すると、発言者の分布、一人あたりの発言回数、話す・聞くの学習者の体勢などを明確に捉えることができる。

授業後の協議会では参会者の身近な問題を取り上げ参会者の活発な討論を期したい。私のこれまでの体験では、総じて討論は不活発である。どうしてであろうか。参会者に身近な問題が取り上げられないということがあるのではないか。参会者が日々の実践で抱えている問題意識に近い話題・題材であれば、自実践とつなげて質問や意見を形成しやすいであろう。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計1 件)

常木正則、(私家版)国語科学習指導論綱要、2014、44頁

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者
常木 正則
(TSUNEKI, Masanori)
新潟大学・人文社会・教育科学系・フェロ
ー
研究者番号：90125724

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：